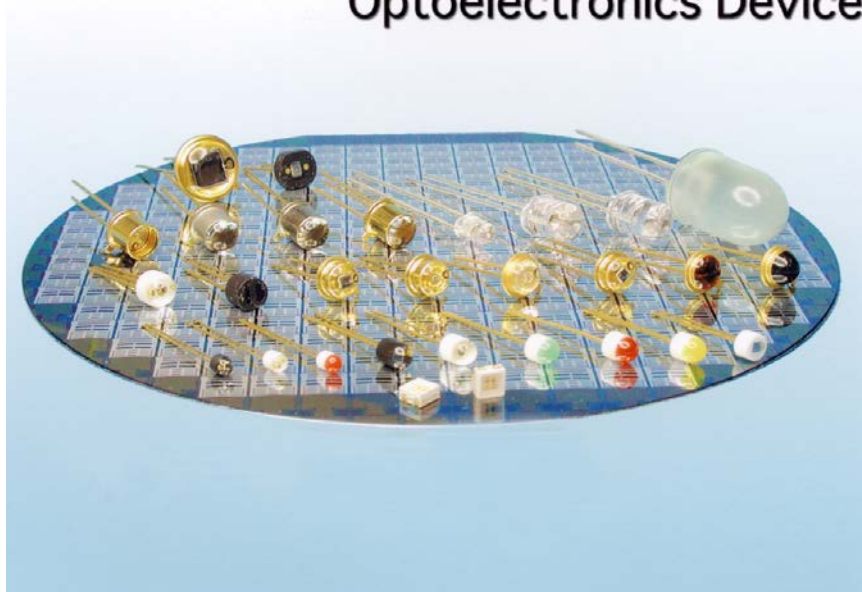


# 2013年度 環境活動レポート

(対象期間：2013年4月～2014年3月)

Optoelectronics Device



大倉電機株式会社

2014年4月25日発行

# 環境方針

## 基本理念

大倉電機株式会社は、地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、全組織を挙げて環境負荷の低減に努力します。

## 行動方針

大倉電機株式会社は、光半導体の製造・販売に係わる全ての活動、光半導体の製造および販売に対する環境影響を低減するために、次の方針に基づき環境経営活動を推進し地球環境との調和を目指します。

1. 当社の活動、光半導体の製造および販売に係わる環境影響を常に認識し、環境汚染の予防を推進するとともに、環境経営活動の継続的改善を図ります。  
また、目的・目標は定期的に見直しを実施します。
2. 当社の活動、光半導体の製造および販売に係わる環境関連の法的及びその他の要求事項重点項を順守します。
3. 当社の活動、光半導体の製造および販売に係わる環境影響のうち、以下の項目を環境テーマとして取り組みます。
  - (1) 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
  - (2) 二酸化炭素排出量削減（電力・化石燃料の使用量削減）
  - (3) 水資源の節水
  - (4) 廃棄物排出量の削減
  - (6) 化学物質使用量の把握
  - (7) グリーン購入の実施
  - (8) 環境に優しい製品の製造販売
  - (9) 啓発活動（工場周辺の清掃）
4. 一人ひとりが環境負荷低減活動を積極的に実践できるように、この環境宣言を全従業員に周知するとともに社外へも公表します。

上記の方針達成のために、目標を設定し、定期的に見直し環境経営を推進します。

制定日 2005年10月15日  
改訂日 2014年04月01日  
大倉電機株式会社

鈴木康之

## ●組織の概要

### 1. 会社概要

- |        |   |
|--------|---|
| ①会社名   | 大倉電機株式会社  |
| ②代表取締役 | 鈴木 康之   |
| ③所在地   | 〒610-0343<br>京都府京田辺市大住姫垣内 4 - 1                                     |
|        | TEL 0774-63-5866  |
|        | FAX 0774-63-5786  |
| ④事業内容  | 光半導体の製造、販売<br>・可視光発光ダイオード<br>・赤外光発光ダイオード<br>・フォトダイオード<br>・フォトトランジスタ |
| ⑤資本金   | 1,600万円   |
| ⑥従業員数  | 20人   |
| ⑦敷地面積  | 1,440㎡  |
| ⑧延床面積  | 860㎡  |

### 2. 環境管理責任名と連絡先

- |         |  |
|---------|--|
| ①環境管理責任 | 鈴木 康之  |
| ②連絡先    | TEL 0774-63-5866<br>FAX 0774-63-5786<br>E-mail kankyo@ohkura-ele.com |

## ●対象範囲

- |       |               |
|-------|---------------|
| 登録組織名 | : 大倉電機株式会社    |
| 活動    | : 光半導体の製造及び販売 |

●環境目標とその実績

EA21コア指標		単位	2010年	2012年	2013年		2014年	2015年
			基準値 実績	実績	目標	実績	目標	目標
二酸化炭素 排出量削減	購入電力	(Kg-CO <sub>2</sub> )	37,518	32,298	32,265	27,615	31,515	31,140
		(Kwh)	102,507	88,245	88,156	75,450	86,106	85,080
					(14%削減)		(16%削減)	(17%削減)
	灯油	(Kg-CO <sub>2</sub> )	672	585	625	718	625	625
		(L)	270	234	252	288	252	252
					(7%削減)		(7%削減)	(7%削減)
	廃プラスチック	(Kg-CO <sub>2</sub> )	97	135	-	738	86	86
		(t)	0.037	0.052	-	0.284	0.033	0.033
					目標値なし		(10%削減)	(10%削減)
二酸化炭素総 排出量	(Kg-CO <sub>2</sub> )	38,287	33,018	32,890	29,070	32,226	31,851	
節水 (総排出量)	上水道	(m <sup>3</sup> )	142	139	144	140	144	144
					(現状維持)		(現状維持)	(現状維持)
廃棄物排出量	産業廃棄物	(t)	0.204	0.157	-	0.622	0.180	0.180
							(12%削減)	(12%削減)
	一般廃棄物(再 利用含む)	(t)	0.238	0.187	0.202	0.201	0.190	0.190
				(15%削減)		(20%削減)	(20%削減)	
グリーン購入	グリーン マーク品 の購入	(円)	29,800	35,000	(-)	15,000	(-)	(-)
			備品での購入となるため目標金額の設定が出来ないため実績値のみを記載する 本年度もコピー用紙、文具、OA機器はグリーンマーク品を購入					
啓発活動	会社周辺清掃		月1回	月1回	月1回	月1回	月1回	月1回
			[達成]	[達成]		[達成]		
PTRT物質 の使用量	エポキシ樹脂 の主剤として 使用	(Kg)	41.8	31.9	<del>XXXX</del>	25	<del>XXXX</del>	<del>XXXX</del>
			製品の原材料かつ代替製品が無いため削減目標は立てることは出来ない。移動量に関しても、樹脂を硬化させると物質が変位するため移動量は明記しません。					

( ) 内は2010年度比削減量

\* 電力の二酸化炭素排出量換算値 : 0.366 Kg-CO<sub>2</sub>/kWh

## ●環境活動計画及び取組結果とその評価、次年度の取組内容

◎よくできた ○ままできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取組み計画	達成状況	次年度	評価 (結果と次年度の取組内容)
<b>電力による二酸化炭素排出量の削減</b>			
数値目標	◎	■上方修正 □下方修正 □基準見直し □現状維持	
・電気オープンの計画運用	◎	継続	
・就業時以外のブレーカーOFF	◎	継続	
・照明機器の間引き点灯	◎	継続	
・昼休みの時の消灯	◎	継続	
・空調温度の適正使用	◎	継続	
・使用しないOA機器は電源OFF	◎	継続	
・製造機器照明のLED照明化	◎	強化	白熱球の置き換え用を作る
・常夜灯のLED照明変更	◎	維持	
<b>化石燃料による二酸化炭素排出量の削減</b>			
数値目標		□上方修正 □下方修正 □基準見直し ■現状維持	
・石油ストーブの温度設定の適正運用	◎	継続	
<b>節水</b>			
数値目標		□上方修正 □下方修正 □基準見直し ■現状維持	
・浴却水、切削水の循環使用	◎	継続	
・水回りに「節水」ラベル貼り付け	◎	継続	
<b>一般廃棄物の削減</b>			
数値目標		□上方修正 □下方修正 □基準見直し ■現状維持	
・出荷用梱包材の再利用	○	継続	客先によっては再利用拒否有り
・古紙のリサイクル	◎	継続	
・FAXのペーパーレス化	○	継続	一部プリントアウトの必要があり
・裏紙使用	◎	継続	
・ゴミの分別	◎	継続	
<b>産業廃棄物の削減</b>			
数値目標			今年度は駐輪場の解体・移設。倉庫整理のため、大量の廃棄物が出るため削減目標は立てていない。
・行程ロスの削減	◎	継続	
・廃棄物の分別	◎	継続	
<b>グリーン購入の推進</b>			
			購入品目がコピー用紙、文具、OA機器等となり、部材が必要になると購入というスタイルなので、あえて数値的目標は設定していない。コピー用紙、文具、OA機器はグリーン購入法適合製品を購入する。2013年度の購入実績金額は、約15,000
<b>啓発活動</b>			
・工場周辺の清掃 (月1回)	○	継続	

## ●環境関連法規への違反、訴訟等の無有

定期評価の結果、環境規制法規等の逸脱はありませんでした。

また、関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間ありませんでした。および自らが遵守状況をチェックし問題もありませんでした。

関連法規	対象設備・施設・物質	順守状況
大気汚染防止法	電気オープン	該当しない（自主規制）
水質汚濁防止法	切削水	該当しない（自主規制）
騒音規制法	コンプレッサー(2.2Kw、3.5Kw)	該当しない（自主規制）
振動規制法	コンプレッサー	該当しない（自主規制）
PRTR法	液状エポキシ樹脂主剤	遵守、適正保管
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	廃プラ、金属くず	遵守
浄化槽法	浄化槽	遵守
労働安全衛生法	有機溶剤	遵守、最低量の保管
悪臭防止法	電気オープン	遵守

## ●代表者による全体評価と見直しの結果

●環境活動を長年行ってきたので各環境活動項目での大幅削減案は出尽くしている感があるが、小さな削減を積み上げて更なる環境活動に努める。

●代表者による全体評価と見直しの結果

項 目	見直しの必要性
環境方針	■不要 ・ □必要
環境方針については来年度もこの内容で行う。	
項 目	見直しの必要性
目標・活動計画	■不要 ・ □必要
今後は大幅な削減は望めないので小さな削減を見つけそれを積み上げていく必要がある。	
項 目	見直しの必要性
環境経営システム	■不要 ・ □必要
グリーン購入でのリサイクル可能品目を増やす。 来年度は省エネPCとプリンターの導入予定。 製造装置に使用している照明機材も装置改造を行い可能な限りLED化を進める（自社開発による）	
項 目	見直しの必要性
その他	■不要 ・ □必要

●総括

環境活動を長年行っているため各環境活動項目での大幅削減案は出尽くしている感があるが、小さな削減を積み上げて更なる環境活動に努める。